

再評価調書

事業名		保安林管理道整備事業	事業主体	大阪府
所在地		父鬼町地区（和泉市）		
再評価理由		事業採択後 6 年目で継続中（林野庁再評価基準による）		
事業概要	目的	<p>府内の森林は、水源のかん養・防災機能はもとより炭素固定・保健休養機能など、多様な公益的な機能を有しており、都市部に多くの恩恵を与えている。</p> <p>森林のなかでも、特に人工林の維持管理には、間伐などの保育作業が必要であるが、道路のない地域では、これらの保育作業に手間がかかるため、林床の土壌流亡が見られ、災害の発生が懸念される。</p> <p>また、府内は森林火災の発生率が高く、特に泉州地域で顕著であり、管理用道路がない地域では消火活動が円滑に実施できていない。</p> <p>これらの課題に対処するため、保育の必要な保安林が集中している和泉市父鬼町地区において保安林管理道を整備し、この道を森林の保育、山火事の初期消火に活用することによって、森林の公益的機能の確保、増進を図る。</p>		
	内容	保安林管理道開設：4,300m		
		対象森林面積：141.31ha		
	上位計画	第9次治山7箇年計画		
関連事業	予防治山事業、復旧治山事業			
事業の進捗状況	経過	事業採択年度：H8	工事着手年度：H8	完成計画年度：H17
	進捗状況	計画全事業費：860,000千円 計画全延長：4,300m	事業費：30.8% 施工延長：30.9%	
	一連の整備効果発現	公益的機能が低下している保安林の機能回復が早急に図られ、府民の豊かで安全な生活に寄与する。		
	課題	特になし		

事業を巡る社会情勢の変化等	事業目的に関する諸状況	<p>大阪平野の市街地を取り巻く形で位置する府内の森林は、面積58,000ha（府域面積の30%）で、その98%が民有林であり、昭和30年代からの積極的な樹種転換により、スギ、ヒノキの人工林が現在48%となっている。</p> <p>人工林のうち、間伐などの保育作業を必要とする森林が約40%を占めているが、木材価格（木材需要）の低迷や労働力不足等により、森林の管理意欲が低下し、その結果、森林所有者の林業離れが進み、手入れの遅れた森林が増加している。</p> <p>このため、土壌の流亡等とともに病虫害や風水害の危険が生じるなど、森林の荒廃化による森林の持つ公益的機能の低下が懸念されるなか、適切な森林管理による健全な森づくりが急務となっている。</p> <p>平成10年度の府政モニターアンケートにおいては、森林林業に関して行政機関に望むことの1位に、森林の公益的機能の保全に必要な治山工事や森林整備の推進があげられている。</p> <p>森林整備を計画的・効率的に進めるためには、林内道路の整備を進めていく必要があり、とりわけ森林の公益的機能の高度発揮が求められる保安林については、特に森林の適正な管理が必要であり、管理用道路の整備による保育作業の促進を図っていくことが重要となっている。</p>
	地域の状況	<p>当該地域は、300年の伝統をもつ河内林業の一角をなすスギ、ヒノキ人工林を主体とした森林となっているが、保育の遅れも目立っており、間伐など森林の早急な保育作業を必要としている。</p> <p>とりわけ山間部は、保安林が面的に広がりをもって位置しており、適切な森林整備による森林の持つ公益的機能の回復向上を図り、健全な森づくりを進めていく必要がある。</p> <p>山頂部は、河内、和泉、紀州の三国の境である三国山が有り、また宗教的にも歴史が古く、従来より多くの府民が訪れ親しんでいるが、さらに平成8年10月の国定公園拡大指定により、入山者がますます増加している。</p> <p>このため、下流域の保全はもとより、火災等森林災害の危険度も一層増していることに伴い、森林管理用道路と早急な保育作業を地元から強く要請されていたものであり、事業実施については地元の全面的な協力を得ている。</p>

(事業名：父鬼町地区保安林管理道整備事業)

費用 便 益 分 析	具体的な便益内容			受益者	費用便益比 (B/C)	備考	
		水源かん養効果 (洪水防止、流域貯水、水質浄化) 山地保全・災害防止効果 (土砂流出防止、土砂崩壊防止) 環境保全効果 (炭素固定、酸素供給、保健休養等)			府民	1.90	代替法、仮想評価法により算定
事業 効果 の 定 性 的 評 価 等	大項目 (事業共通)	小項目	効果の指標等	具体的な効果等		受益者	備考
	安全・安心	山地災害の未然防止 森林の公益的機能の維持・増進		社会情勢の変化に伴い、適正な維持・管理が滞り公益的機能が低下した保安林地域において、保安林の適正な維持管理 (森林保全管理、災害の復旧・未然防止) 及び治山事業の計画的かつ効率的な実施及びを円滑に行うとともに、山火事の初期消火を迅速に行うことにより、森林がもつ多様な公益的機能の維持・増進が図られる。 また市街地での災害時には、ライフラインとして迂回路確保に寄与する。		府民、周辺住民	
	活力	地域の活性化		森林所有者自らが森林保全管理を実施することにより、間伐材等木材の有効活用や搬出コストの低減などが進むとともに、地域交通の円滑化 (移動時間短縮効果等)、ハイカーなどの入山者の増加により、地域の活性化に寄与する。		森林所有者	
	快適性 (生活環境)	森林の公益的機能の維持・増進		健全で活力ある森林の整備により生物の多様性の確保、地球温暖化防止などの環境保全をはじめ、保健休養などの役割発揮や府民が身近な森林として親しむ場を提供することができる。 また、下流の父鬼川を経て継続的に水を供給する『緑のダム』として、府民の快適な生活環境の形成に寄与する。		府民	
自然環境等への影響と対策		治山事業は従来から、森林へ与える影響を最少限に留める工法を適用してきたところであり、本事業においても自然環境への影響は十分配慮している 本事業では、スギ、ヒノキの人工造林地の一部が管理道敷となるため、一時的に森林機能の低下を生じるが、切土、盛土を極力少なくする工法を採用するとともに、法面等の早期緑化を行うことにより、森林への早期回復を図っている。 中長期的には、保安林管理道の整備により、適切な森林の保全管理や治山事業など関連事業の効果的・効率的な実施が可能となり、森林機能の増進を図ることができる。					
特に特記する事項							